

香取遺産

◀①修理工事前の佐原三菱館のドーム屋根②ドーム屋根の銅板と下地を取り外した状態



vol.170 歴史を語る火事の傷跡

佐原三菱館を象徴する半球状のドーム屋根。修理のため、覆われていた銅板を取り外し、下地を丁寧に解体していくと、表面が焼け焦げた小屋組(ドーム屋根を支えている骨組み)が現れてきました。解体作業をさらに進めていくと、小屋組はすっかり焼け焦げ、葺かれていた銅板も、表面は不自然に歪み、内側は煤けていました。このことから、かつて三菱館が火事にあい、焼けた小屋組をそのまま残し、銅板なども再利用して修理を行っていたことが分かりました。

焼け跡の観察から、火は最初にドームの北西隅から燃え始め、次第にドームの内側へと広がっていったようです。ドーム以外に激しく焼けている場所はなかったことから、火事はドームに集中したものであったと思われる。

また、火事にあつた部材を極力保存して修理されたため、創建当初の作り方を知ることができました。今回の保存修理も創建時の部材・工法を保存することを第一に考え、小屋組は構造的な補強を行い、火事の記録と併せて残していくことにしました。銅板は再利用が難しいことから、別に保存して新しいもので葺き替える予定です。

建物は自らの体にさまざまな傷跡を残して今を生きています。その傷跡を注意深く観察し、あえて残すことも、文化財を後世に伝える大切な作業の一つです。

圓生涯学習課

☎(50)1224



▲焼け焦げたドームの小屋組